

議長（高木将君） 次，12番菊池伸也君の発言を許します。

〔12番 菊池伸也君登壇〕

12番（菊池伸也君） 12番菊池伸也であります。ただいま議長より発言の許可をいただきましたので，通告に従い，順次質問をいたします。

最初に，観光行政の確立についての中で，竜神大吊橋の魅力アップに係る取り組みについてであります。

竜神大吊橋の渡橋者については，平成6年4月に供用開始以来，間もなく500万人を達成する見込みであると伺っております。平成6年度には90万人を超えた渡橋者が，その後，減少の一途をたどり，残念ながら，昨年度は22万人まで落ち込んでおります。このため，1年間で100万人の渡橋者数を達成したにもかかわらず，300万人から400万人に至るまでには，およそ4年間弱かかっております。これはひとえに，リピーターが確保されていないのが主な原因であると考えております。

以前，竜神大吊橋の第1駐車場までは来るが，橋を渡ってもその先に何も無いから，お金を払ってまで渡らないという人がかなりいると聞いたことがあります。今後，大子町から国道461号線の拡幅工事が完成いたしますと，交通の利便性が増し，これまで以上に多くの方が竜神大吊橋を訪れやすくなるものと思います。しかしながら，橋を渡っても何も無いということで，多くの方ががっかりして帰られると聞いております現状，多くの渡橋者を望むことはできないのかなと思います。

これまで，春は鯉のぼりまつりを，夏には灯ろうまつりを，秋には紅葉まつりを，そして冬には蕎麦まつりを開催して，四季を通して集客を図ってきたところであり，関係者の並々ならぬご努力には改めて敬意を示したいと思います。

このような中，九州の大分県に日本一の吊橋，390メートルの九重夢大橋が完成し，我が常陸太田市の竜神大吊橋は，日本で2番目となってしまいました。渡橋者をふやすためには，橋をいかに渡っていただくか，そのためには橋を渡る仕掛け，すなわち橋を渡った先の魅力づけをどのように行うかが大きな課題であります。そこで，財政的な問題を初めいろいろな制約がある中で，県北地域の一大観光拠点であります竜神大吊橋の魅力づけについて，どのように取り組んでいくお考えなのか，市長にお伺いいたします。

次に，修学旅行田舎に泊まろう生活体験について。

11月の茨城新聞に，「修学旅行で田舎に泊まろう 観光地より生活体験」と大きく書かれておりました。農山漁村の民家に宿泊して生活体験する修学旅行が，都会の学校を中心に広がっているということでもあります。学校側は，自然や住民と触れ合う教育効果に注目する一方，過疎地域が多い受け入れ側も，ビジネスチャンスと誘致に力を入れているようで，従来のバスで観光地をめぐる修学旅行のスタイルが，変わりつつあるようでもあります。

東京の財団法人日本修学旅行協会によりますと，農山漁村での体験修学旅行がふえ始めたのは四，五年前からで，学校間の口コミで広まり，客室の面積要件の撤廃など政府の規

制緩和で、農家が民宿を営みやすくなったことも、受け入れ増の背景になっているとのことであります。新聞で紹介されております受け入れている地域も、北海道から沖縄までと大変幅広く、体験メニューも地域によってさまざまであります。

この田舎での生活体験は、学校や生徒の受けとめ方も上々で、学校によっては、毎年同じ地域に民家宿泊を続けているようであります。民泊先では、インターネットではわからない自然体験などもでき、生徒は、最初のうち、知らない家庭に泊まることを心配するが、別れるときには泣き出す子供もいるとのことであります。

このような成果を踏まえ、政府は、来年度から小学生を対象に、農家などで1週間程度の宿泊体験をしてもらう事業を始めるということでもあります。本市においても、田舎暮らしの生活体験や農業体験など、幅広いメニューの提供が可能であろうかと思えます。特に水府地区におきましては、竜神ふるさと村の施設と農家民泊との両方を利用すれば、他の地域とは一味違った受け入れ方ができるのではないかと思います。現在、数人の方で組織づくりを検討されていると伺っております。私としましては、できる限り応援をしていくつもりであります。

本市におきましては、小規模農家の多い山間地の農業活性化のために、そして市の観光事業発展のためにも、積極的な取り組みをするべきであると思えますし、組織立ち上げのための支援も検討されるべきであると思われませんが、執行部のお考えをお伺いいたします。

次に、観光協会の一本化についてお伺いいたします。

ことしもそれぞれの地区で、季節によりいろいろなイベントが開催されましたが、中でも秋田市、仙北市、牛久市の参加された常陸太田秋まつり2007は、すばらしい成果があったと思えます。祭りの関係者には敬意を示しますとともに、イベントの重要性を再認識いたしました。

以前に、観光協会の一本化を進めていくというお話がありましたが、現在どのように進められているのか、お聞かせ願います。私は、観光協会が一本化されれば、各種イベントの企画等もスムーズにいくと思っております。何よりも、専門のスタッフ等の配置も可能になり、効率のよい運営が可能になると思えます。また、グリーンふるさと振興機構や他市の観光協会等との情報交換、連携の事業等も、進めやすくなるのではないかと思います。そこで、観光協会の早急な一本化をご検討するべきであると思えますが、執行部のお考えをお聞かせ願います。

続きまして、生活環境の整備について2点ほどお伺いいたします。

本市の生活排水対策は、生活環境の改善、公共用水域の水質保全を図ることを基本に、生活公共下水道、特定環境保全公共下水道、農業集落排水事業、合併処理浄化槽設置事業により一体的に進められているわけではありますが、このうち合併処理浄化槽設置事業には、従来の補助事業と、里美地区で既に事業を展開し、完了をしている、市町村設置型の戸別合併処理浄化槽設置事業があるわけであります。そこで、これらの排水対策事業の進捗状況と、計画の見直し等を含め、区域の拡大を予定する戸別合併処理浄化槽設置事業の進め

方と財源の確保についてはどのようになっているのか、お伺いをいたします。

以前に、国安町において、特定環境保全公共下水道事業実施計画の説明会があり、その後、何の連絡もないので、事業を本当に進めるのかどうか、疑問視をされている方がおりましたので、今後の予定等がわかれば、ご説明をお願いしたいと思います。

また、今回、区域の拡大を予定している戸別合併処理浄化槽設置事業と従来の補助型設置事業との整合性はどのように考えられているのか、あわせてお伺いをいたします。

また、快適な生活空間を確保するためには、生活道路の整備ということ抜きにしては語れないと思います。幹線道路につきましては、現在、粛々と進められておりますが、地域に居住されている方たちが毎日の生活で使われている道路につきましては、総合計画で言われているような快適空間とはほど遠い状況であるのが現状であります。道路が狭く、車も軽自動車ぐらいしか通れないような地域に、これからの若い人たちは、家を新築することなど考えもしないのではないかと思います。水府地区におきましても、道路の舗装はしてありますが、幅員が非常に狭く、車のすれ違いに、互いに不愉快な思いをしている現実があります。

路面の少々の段差や凹凸などは、車で通行する場合は何とも感じられませんが、中学生の自転車通学や、交通弱者と言われているお年寄りの方たちにとっては、この少々の路面の段差や凹凸が、けがの大きな原因ともなりかねないのが現状であります。幅員については、現在の道路の側溝を入れかえ、ふたをかけるなど、ちょっとした改修を進めることにより、地域に住む人々の日常の生活空間が、快適な生活空間へと変化をしたなと感じられるようにしていかなければならないと思われまます。新生常陸太田市が誕生した際に挙げられた事業計画、過疎自立促進事業の時限立法である平成21年までには、到底完了することができないのが実情であろうと思われまます。そこで、当市においては、生活道路の改良・改修に今後どのように取り組まれていくのか、お伺いをいたします。

次に、B & G水府海洋センターグラウンドのトイレの改修についてお伺いをいたします。

水府地区北部に位置するこのB & G水府海洋センターグラウンドは、昭和62年に水府北部運動公園として整備され、平成3年にはB & G水府海洋センターが完成しております。現在も、老若男女を問わず、多くの人々にさまざまなスポーツ大会などで利用されております。これからも、野球やソフトボール、ゲートボール、ベタンク、輪投げ、グラウンドゴルフなどの大会が数多く開催されることと思われまます。地域のコミュニケーションを図る場として、また、青少年の健全育成の場として、あるいは、地域に住む人々の健康管理や増大する医療費の削減等を考えた上においても、大変重要な施設であると思われまます。

このグラウンドの利用者が使うトイレが大変古く、くみ取り式であるため、利用者に非常に評判が悪いのが実情であります。私はちょっとしたきっかけで、ことしの8月に、東京の大田区にある野球スポーツ少年団に、このグラウンドを合宿の練習場として使っていただきました。総勢40名ほどでしたが、水府のある旅館に2泊3日で合宿をしていただき、水府のスポーツ少年団のご協力で2試合の交流試合も行うことができ、有意義な合宿

であったと指導者の方も大変喜んで、東京に戻られました。後になって、指導者の方からの礼状も届いております。しかしこの間、少年団の子供たちは、海洋センターまで行ってトイレを利用したと聞いております。

このグラウンドは、水府地区の人たちにとっても大変重要な施設であり、これからますます高齢化が進む中においても、スポーツ等を大いに楽しんでいただくことで、地域の人々の健康をいつまでも守ることができ、これが医療費の削減にもつながっていくと思います。この大切な施設のトイレが、全く時代にそぐわないようなトイレでありますので、高齢者等のことも考慮され、早急に、使いやすい水洗トイレへの改修を行うべきであると思いますが、執行部の考えをお伺いいたします。

以上で、1回目の質問を終わります。

議長（高木将君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） ご質問のありました中で、竜神大吊橋の魅力アップにかかわる件について、ご答弁を申し上げます。

議員ご発言のとおり、平成6年にできましたときには、年間約90万人の渡橋者のお客さんがいらっしゃいました。その後急速に減りまして、ただいま現在は、年間22万人前後の渡橋者の数という状況でございます。間もなく、累計では500万人に達するところでもあります。

まず、できた当初におきましては、やはり日本一の歩行者専用の大吊橋ということで、物珍しさといえますが、そういうことに関しても非常な関心を呼んで、多くのお客さんに来ていただきました。中でも、観光バスで訪れてくれるお客さんが多かったわけでありませぬ。その後、先ほどご発言にもありましたが、下の国道、県道の狭さから、観光バス会社からは大変な不評を買っておるところでありまして、461号線につきましても、県道につきましても、その整備を急ぐ必要があるということで、私としては、知事に対しまして、太田で最も最初に整備をしなければいけない道路として461号線を挙げ、県道33号線がその南になりますが、その整備を、今、急いでいただいているところであります。

ことしにつきましても、もっと客数をふやせないかということで、ホームページ等も立ち上げまして、いろんな検索ができるようにしたり、バス会社に対して来ていただくような要請を、PR等もいたしました。しかし、ことし一番減った観光バスは、会社の名前は申し上げませんが、東京にある観光バス会社。埼玉ですとか、その周辺の県にかかわる観光バス会社からは、逆に結構増えてきている、そんな状況にあります。都心等にある観光バス会社からの客数が減ったという背景は、道路の問題が一番大きいわけでありませぬ。したがって、1番目には、道路の整備を早くして、そして、今、大子町等でも観瀑台の整備が進められております袋田の滝、大吊橋、そして西山荘等をめぐるような広域的な周遊コースを早く設定をする中で、さらにPRを進める必要があると思います。

さて、ご指摘の、橋を渡った先での何も無い……、確かにカリヨンがあるだけでありませぬ。

す。最近の渡橋をしていただく方々の動線といいますか、動向を見ておきますと、橋を渡り切ってから、下におりて、それで、ダム沿いをハイキングされる方、それからもう一方では、橋をおりて、ダムサイトを通って、それで橋の渡り口の手前のほうから登る方、さらには、橋を下から写真を撮ったり写生をしたりする方、さまざまな状況にあります。先般も、どういふ方法があるろうか、従業員ともども、地域の方も入れまして検討をしたんですが、まずは、橋を渡った先の、下におりる急な歩道になりますが、そういうことの整備をまずする必要があるだろう。さらに、できることであれば、非常に急峻な山ですけれども、あれから上に上がれるような歩道の整備……、わずかにはあるんですけども、整備はされていません。そういう整備をした中で、さまざまな角度から橋が見られるようなことというのが、1つの魅力になるようであります。そんなことを含めて、整備の方向はまだ確定をしているわけではありませんけれども、方向づけをしていく必要があるだろうと思っております。

議長（高木将君） 産業部長。

〔産業部長 小林平君登壇〕

産業部長（小林平君） 1点目の、観光行政の確立についての中のもの、修学旅行で田舎に泊まろう生活体験についてお答えいたします。

本市での受け入れメニューには、さまざまな分野での取り組みが考えられます。これらの中でも、水木小学校との交流体験など、既に取り組みされている分野もございます。また、グリーンふるさと振興機構では、圏域における、子ども農山漁村交流プロジェクトモデル事業の推進を目指して、積極的に取り組みを進めております。これらの事業を発展・拡大させることや、そのほかの事業を取り組む場合などは、受け入れをする地域の体制や環境が大切な条件になってきます。体験事業には、単に施設の問題よりは、受け入れる人の組織をつくり上げることが重要な課題でありますし、一番重要なところであります。これらの環境づくりには、市といたしましても積極的にかかわりを持っていきたいと考えているところでございます。

次に、観光協会の一本化についてお答えをいたします。

観光協会の一化につきましての現在の進捗状況であります。現在は担当係において、一本化に向けた作業手順の調整をしているところでございます。この後、各事務局長会議等で細部のすり合わせを行いながら、合併の作業を進めていくこととなります。また、金砂郷地区には、現在、観光協会の組織がありませんので、観光協会の合併に合わせて会員の勧誘等を行いまして、合併後の観光協会は、市内全域を網羅する組織としていきたいと考えております。

市内の観光協会が1つになり、市域全体を見渡した中で観光事業の推進を図るようになることは、処理業務や効率の面でいまだ未知数のところもございまして。これらにつきましては十分に研究をした上で、効果的な組織形態と事務局の体制を図ってまいりたいと考えております。

議長（高木将君） 建設部長。

〔建設部長 川又和彦君登壇〕

建設部長（川又和彦君） 生活環境の整備についてお答え申し上げます。

初めに、生活排水対策事業の進捗状況及び計画の見直し、並びに戸別合併処理浄化槽設置事業の進め方についてでございます。

まず、公共下水道、特定環境保全公共下水道、農業集落排水事業、地域下水道及び戸別合併処理浄化槽につきましては、市が設置管理を行います市町村設置型と、個人が設置管理する際に市が補助をします個人設置型の２種類がございまして、それぞれの進捗状況についてでございます。

事業認可面積に対します平成１８年度末の整備済み面積の割合は、公共下水道が６６．３％、特環が３１．１％、農集は既に８地区において供用開始し、残る佐都４地区において、本年度、事業に着手したところでございます。

地域下水道につきましては、里美地区の３団地において既に整備が完了し、供用してございます。

次に、今後、整備地域の拡大を計画してございます市町村設置型の戸別合併処理浄化槽につきましては、これまで里美地区のみで実施してまいりました関係上、平成１８年度末現在、４５０基の整備にとどまっております。同様に、個人設置型合併処理浄化槽につきましては、平成１８年度末現在で１、２００基を設置してございます。

次に、下水道整備全体計画の見直しについてでございます。見直し案につきましては、今後、国・県との協議が必要であり、いまだ確定はしてございませんことから、基本的な考え方を報告させていただきます。まず、今後の公共下水道の整備区域につきましては、比較的人家の密度が低い、田渡、長谷、高貫、亀作、真弓町の一部及び大森町の一部につきましては、事業費の縮減を図る観点から、市町村設置型戸別合併処理浄化槽設置事業への変更を検討してまいりたいと存じます。

特定環境保全公共下水道事業につきましても同様に、事業費の縮減を図るため、東連地町につきましては、今後、市町村設置型戸別合併処理浄化槽設置事業への変更を検討してまいりたいと存じます。一方、支所や学校など公共施設を有する大方及び高柿町の一部につきましては、国安、松平、和田町などの整備にあわせ、特環での整備を拡大してまいりたいと存じます。

次に、市町村設置型戸別合併処理浄化槽設置事業の今後の進め方と財源確保についてでございます。現在のところ、市町村設置型戸別合併処理浄化槽設置事業により、新たに約４、０００基の整備を検討しており、その整備に要する概算事業費を約５０億円と見込み、その着実な整備に努めてまいります。そのうち平成２０年度につきましては、１００基程度の整備を計画し、その事業費といたしましておよそ１億２、３００万円を予定してございます。財源といたしましては、国庫補助金、分担金、起債及び一般財源となっております。

次に、市町村設置型戸別合併処理浄化槽設置事業と、個人設置型合併処理浄化槽との整合性についてでございます。個人設置型につきましては、特定環境保全公共下水道と公共下水道の計画区域内にお住まいの方のうち、接続までに相当の期間を有する方の要請にこたえるため、将来の接続を条件として事業実施することとしており、一方、今回、整備地区の拡大を計画してございます市町村設置型戸別合併処理浄化槽につきましては、公共下水道、農集及び地域下水道による整備計画を有していない地域を対象として、その整備を実施してまいります。

なお、条例の施行に伴い、新たに市町村設置型戸別合併処理浄化槽設置事業対象地域となった中において、これまでに個人設置型合併処理浄化槽を設置された方のうち、市に寄附をしていただける方におかれましては、市町村設置型戸別合併処理浄化槽として、市において維持管理を実施してまいることとしてございます。

次に、生活道路の改良・改修工事についてお答え申し上げます。

まず、道路整備の方針と進め方についてでございます。整備の対象となる道路の選定に当たりましては、地元町会からの要望をいただいた上、整備効果や現況の危険状況を現地調査により確認させていただくとともに、地元地権者の皆様がおおむね同意をいただいているかなどを考慮いたしまして、工事路線としての決定を行っているところでございます。

また、工事の実施に当たりましては、財源を有効に活用し、多くの地域において、道路整備が着実に推進できますよう、大型構造物の削減を図るなど、コスト縮減に努めた設計を行った上、用地など地元のご協力をいただきまして、速やかに工事が執行できるよう努めることとしてございます。あわせて、ご指摘をいただきました路面の段差や凹凸の解消、並びに側溝の入れかえやふたかけによる幅員の拡幅につきましても、小中学生や高齢者の方の安全を確保する観点から、十分に配慮してまいりたいと存じます。

今後とも、道路改良及び改修工事につきましては、地元町会の皆様方と連携し、その円滑な執行に努めてまいりたいと考えておりますことから、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

議長（高木将君） 教育長。

〔教育長 小林啓徳君登壇〕

教育長（小林啓徳君） B & G水府海洋センターグラウンドのトイレ改修についてのご質問にお答えをいたします。

このグラウンドにつきましては、地域の方々を中心に、野球、ソフトボール、あるいはゲートボールなど、たくさんの皆さん方にご利用いただいております。昨年度は、4,000人以上の利用者がございました。

このグラウンドのトイレにつきましては、平成元年度に、同グラウンドを利用する方の利便性を図るために設置されたものでありますが、議員ご指摘のとおり、くみ取り式和式のトイレであり、設置されてから18年が経過しております。市の総合計画の中に、成人

が健康のため週1回以上スポーツをしている人の割合を、平成26年度を目途に50%以上にふやしていく構想がございます。市民の健康づくりと体力づくりのため、スポーツに親しむ環境と施設整備が重要でございます。そういう面からも、今後、地元の方を含め多くの皆さん方に施設を使っていただきますよう、洋式簡易水洗トイレ改修に向けた検討をまいります。

議長（高木将君） 12番菊池伸也君。

〔12番 菊池伸也君登壇〕

12番（菊池伸也君） 2回目の質問をいたします。ただいまは丁寧なご答弁、ありがとうございました。

最初に、観光行政の中で、竜神大吊橋の魅力アップに係る取り組みについてであります。市長からもご答弁がありましたように、渡った先についてでありますけれども、いろいろな工夫が必要かと思えます。先ほどご答弁の中でも、遊歩道となっている、下におりる道路の階段の部分などにおきましては、小さな子供たちが、階段の面に小さな石ころなどが数多くあり、大変危険であるという話を伺っております。歩きやすいように直す以前の問題でもありますが、それまでの間、随時階段の部分の掃除なども必要なのではないかなと思っております。

また、ハイキングコースや吊橋をいろいろな角度から見られるようなことも考えておられるということでありますので、検討をし、進めていただきたいと思えます。

欲を言えば、上った山の上に展望台などがあればいいのかなとは思いますが、財政的なことも考え、なかなかこれは難しいとは思っております。でも、そういうこともご検討していただければと思えます。

また、最近、吊橋の第1駐車場から対岸の山を見た場合に、紅葉が大変きれいな時期であります。緑の木がかなり生い茂っているのが感じられると言われております。広葉樹の中でもカシの木などの勢いが大変増しているためであると思われ。将来を考えた場合、この美しい景観を守る場合には、広葉樹の中で、カシの木などの伐採、そしてみじ、あるいは山桜等の植樹なども検討されていくべきであると思えますので、ご検討をお願いしたいと思います。

さらに、下におりる遊歩道のわきなどには、季節ごとに山野草の花なども考えれば、季節ごとに来る観光客の目を楽しませるのではないかなと思えますので、ご提案をしておきます。

次に、田舎暮らしの体験であります。ふるさと村を利用することを積極的に考えていかなければ、振興公社の経営上も大変であるというようなことも伺っております。振興公社ご自身でも、集客の努力をしていただきたいと思っております。さらに、行政で地元の協力者を積極的にバックアップをすれば、グリーンふるさと振興機構などの助言を受けながら、農業体験、スポーツ体験、あるいはトレッキングやハイキングなどの里山歩きなど、あるいは陶芸体験などが容易に提供できるようになると思えます。

しかし、ふるさと村を積極的に利用するに当たりましては、利用料金の改定など、あるいはふるさと村に通じる県道からの入り口が、大型のマイクロバスなどは入りづらいという指摘をされております。これもぜひ検討していただきたいと思いますが、ご所見を伺います。

観光協会の一本化は、将来の常陸太田市の観光の発展のためには、必ず実現させなければならぬものと思いますので、よく検討された上で、実現に向けてのご努力をお願いしておきます。

次に、生活環境の整備の中の、戸別合併処理浄化槽についてでありますけれども、該当戸数が約4,000基ということでありましたが、20年度100基ということで、これが全部実現するまでには相当の年数がかかるとは思います。どの程度の目標を持って実行するのかお伺いをしたいと思います。

さらに、事業見直しでもって相当財源が浮き、有効に使われるわけでありまして、この市町村設置型の戸別合併処理浄化槽を実現することによって、この常陸太田市の中に流れている川がすべてきれいな水質となることを目標とされると思いますけれども、現在の水質がどの程度のものであるかわかっていれば、お示し願いたいと思います。

次に、道路についてでありますけれども、町会によっては、何度も同じような要望書を今までも出されていたような話も承っております。町会長さんがいろんな大変な思いをされて、同意書をとったり要望書を出したりするわけでありまして、その要望書を受けた結果、すぐにはできないということでありまして、納得のいくような説明をされるのが親切なやり方なのじゃないかなと思いますので、書類によるご返答とか、どのぐらいまでにできるとかいうことを明示していただきたいなと思っております。

次に、B & G海洋センターグラウンドのトイレであります。前向きに検討をしてくださるようではあります。検討するというだけではなく、実際に補正予算を組んでも実施をしていただきたいなと思っておりますので、再度お伺いをいたします。

以上で、2回目の質問を終わりにします。

議長（高木将君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） 2回目のご質問の中で、竜神ふるさと村の利用につきましての所見をというお尋ねがございました。

私としましては、竜神ふるさと村は、設備は結構立派なのがありまして、利用頻度が低いことが何よりも問題だという認識のもとに、何とかそこへ、できれば子供たちの野外活動等に利用できないだろうかということで、当地域も含まれますグリーンふるさと振興機構等とも相談をしてやっております。先ほどは議員から、入り口のところの道路の件のお話でしたが、そこも含めまして、全体的に下の県道から上がっていく道路が狭いことが、1つネックになっているのが事実でございます。下のほうの道路までの整備なんという話になりますと、いつになるかわかりませんから、入り口等については直すべき

ところを直して、利用促進に努めていきたいと思ひます。

今、都市でお住まいの子供さんたちの田舎体験ということが、非常にクローズアップをしてきている状況下にあります。そういうことも踏まえまして、積極的なPRの中で集客努力を図ってまいりたいと思ひます。一時期、利用者が少ないということで、利用料金を倍額ぐらいに上げた時期もありましたが、それではますます魅力がなくなってしまうので、もとに戻して、今、それをやっている状況であります。さらには、経費節減という点からも、お客がいてもいなくてもあそこの食堂があいていたような事実もありまして、それらは利用申し込みがあったときにのみ、ふだんは保全管理のために人が回ることはありません。常駐する従業員はいないようにというようなことで、直してきたところあります。おかげさまで、水府振興公社の年間指定管理料につきましては、1年に約200万円ぐらいずつ、今その減額を図って進めてきているという状況下にあります。今後とも集客に努力をしてまいりたいと思ひます。

議長（高木将君） 建設部長。

〔建設部長 川又和彦君登壇〕

建設部長（川又和彦君） 再度の質問にお答え申し上げます。

初めに、市町村設置型合併処理浄化槽の整備の目標4,000基についてどう考えるかということですが、これにつきましては、排水先の整備等々もありますけれども、早急な整備が図られますように進めてまいりたいと思ひます。目標年次につきましては、なかなか規模も大きいございますので、割愛させていただきます。

それから、2番目の、河川の水質についてはどうかということですが、現在のところ、国が定める環境基準をすべてクリアしているということで、河川の水質についてはクリアになるものと思っております。

それから、3番目の、生活道路の整備に当たり、町会長からの要望を受けたものはその後どうなるのかということですが、確かにご指摘の点がこれまではありませんので、今後につきましては、要望に対して今後の見通しを、文書等において町会長さんにお知らせできるように努めてまいりたいと思ひます。

議長（高木将君） 教育長。

〔教育長 小林啓徳君登壇〕

教育長（小林啓徳君） 再度のご質問にお答えをいたします。

B & G水府海洋センターのグラウンドのトイレの改修時期でございますけれども、これにつきましては、新規予算の中で計上し、改修をしていきます。また、トイレのドア、それから換気扇の一部にふぐあいがありましたので、これにつきましては、既に修理を実施しております。

議長（高木将君） 12番菊池伸也君。

〔12番 菊池伸也君登壇〕

12番（菊池伸也君） ご丁寧な答弁、ありがとうございました。

道路の整備におきましても、これから文書等でお示しをするということで、よろしくお
願いしたいと思います。

それから、市町村設置型の合併浄化槽の事業につきましても、4,000基という大変大
きな戸数ではありますけれども、できるだけ早い時期に進めていただけますようにご努力
されるよう、お願いをいたしておきます。

それから、B & Gの海洋センターグラウンドのトイレにつきましては、先ほど検討する
ということを言われたものですから、新年度の予算でやっていただけるのであれば、結構
でございます。よろしく申し上げます。

要望だけしておきまして、私の質問を終わります。どうもありがとうございました。